

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和8年度2月号

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村 史傳

編集 中村美也子

令和8年2月 10日発行

瀬々野浦 1194 ☎ 5-0122

2月～3月前半の行事予定

2/3 (火)事務局会議 10時～

2/4 (水)健康体操

2/5 (木)主事会 ZOOM 会議

2/8 衆議院選挙

2/9 (月)出張診療所・支所移動車(午後)

2/11 (水)高齢者サロン

2/13 (金)ブランド市のための餅つき

2/15 (日)川内ブランド市参加

2/18 (水)ペタンク大会・確定申告

2/19 (木)事務局会議

2/24 (月)支所移動車(午前)

瀬々野浦区定期総会



公
矢
さ
ん
作

1月18日(日)10時からコミセン2階において第21回区民総会が行われました。出席者31名委任状が20名で始まりました。議長として中村高康さんが選出され 区長・宮野安弘さんから令和7年度の経過報告がされました。主に西山にとって大事な墓道について特別災害復旧補助金を活用し下墓の補修を区の予算でやることの報告がありました。区民のほうから上墓の補修の要請もあったため検討されるとのことでした。会計監査報告もされ承認されました。続いて大帯姫神社氏子総会が行われ、神祭りが甕マラソンと重なり土曜に変更になったこと。このため踊り子の確保が厳しく今年は藤井薫さんが1人で踊った。一人でもが力強い踊りができたことに感謝を述べられました。いくつかの質疑等がありましたがこれからも例年通りで行うことで承認されました。約1時間程の会議は無事終了しました。

出初式

1月11日(日)令和8年度の出初式が天候不良のため長浜小学校体育館で行われました。瀬々野浦部から7名の消防団の方が参加されました。寒い中日頃から地域のために点検や年末警戒等 ありがとうございます。



津波避難訓練は寒波襲来のため延期しました。実施日は後日お知らせしますのでご協力のほどよろしくお願いします。

青瀬道の雪景色です

(2月8日)



健康サロン（室原先生のプチ送別会）

2/11（水）健康サロンがコミセン2階で行われました。今年度で甕島を去られる室原先生や友人の熊本大学の医師3名・大山保健師・青瀬コミの西会長も参加して下さいました。25名の方が参加され、体脂肪量や骨格筋量（左右の筋力の違い）、体水分量などの検査を実施して下さいました。個人的には標準値におさまったり、超えてしまったりと今後の生活習慣を見直す機会をいただきました。ありがとうございました。また皆さんも室原先生と楽しく会話や食事を楽しむことができたようでこのような機会を持ち、そして準備・参加して頂いた皆さんに感謝です。



ご馳走さまでした

故郷を探る③④

アボ山の「アボ」の意味

「民俗地名語彙事典」（みんぞくごいじてん・ちくま学芸文庫）という本をめくると「アボ・アボシ」という項目が目についた。こう記してある。

『老岐で岸または崖のような処の端をいう。鹿児島県甕島で崖。下甕島（薩摩川内市）の瀬々野浦の部落の北にある急峻な山をアボヤマという。』

また上甕村郷土誌には「サットンがアボ」という地名があつて、「サルものぼれないような険しい崖で中甕の港に流れる川の対岸のガケをいう。」とあつたように記憶する。また定かな記憶ではないが、福島県の山地帯の集落に住む人が傾斜のきつい山をさして「アボ急な山」といういい方をしたのをテレビで見た。

この事例からみて「アボ」とは「崖（がけ）」とか「急峻な」とかを表す古い日本語であることが分かる。それが今日では地形を表わす地名として残っている。以前、「ヒヤ・ヒラ」も崖や急傾斜地を表わすと記したがこれと「アボ」は同意語と言える。だから「アボヤマ」「メーノヒヤ」となる意味が分かる。

また阪神間に住んでおられた方はJRの快速電車で「網干行」という地名を見られたのでは。漢字で表記されると漁村だからこの地名になったのではと考えられるが、そうではなく近辺にガケがあつて、これにちなんで「アボシ」となつたとも考えられる。この辺りの地形を知っておられる方がいらっしゃれば、ご教示をお願いしたい。

全国の「アボ」地名は漢字で表わす阿保・安保・阿保峠・阿母坂・アボ鼻などがあり、シンヌウラの「アボヤマ」は阿母山・阿保山と書く人もいる。

中村 史傳

まだまだ寒い日があります。 暖かくしてお過ごしください！